

# 平成27年度 事業報告

## 岡山理科大学

理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、創造能力の開発を目指す実践の教育を理念とする。



岡山理科大学は創立50周年を迎え、次なる50年への道を歩み始めている。中心的な50周年記念事業はA1号館（新1号館）の建設であり、本年度末には地下

1階、地上11階の建物が竣工する。A1号館は教育研究環境、学習環境、図書館機能などの向上に大きく貢献し、建築工事、研究室の移設準備、構想中の新学部設置業務などが本年度の事業のひとつである。

発展の中核を担ってきた第二世代教員の大量退職を迎え、教育研究体制を変革することができるこの5年間に次のような5カ年の中期目標を掲げた。

**1. 方針：**地方都市に位置する岡山理科大学としては、次なる50年を輝いて迎えるために「特色ある研究」とそれに立脚した「充実した教育」を実施し、広い視野を持つ自主・自律の学生を養成する。

**2. 研究環境の整備：**研究環境の整備を重点課題として位置づける。これとともに大学院生、学部学生などの研究指向・能力を高める体制を構築する。

**3. 教育の充実：**科学者・技術者としての教育と同時に社会人としての人格教育を重視し、グローバル化を視野に入れ、カリキュラム構成などの改善を行う。

**4. 自己点検システムの実施：**構築したPDCAサイクルを稼働させ、自己点検を実施する。

**5. 社会貢献：**地域連携を積極的に行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献する。

岡山理科大学 学長 波田善夫

### 教育の充実

#### ■大学教育改革

社会のニーズに応じた人材を輩出できるよう、平成26年度に設置した大学教育改革委員会を中心に、以下の教育改革を進めました。

- (1) 平成28年度からの4学期制導入に向け、2学期制と併用のアカデミックカレンダーや時間割の調整、ギャップイヤーの活用等を実施しました。
- (2) グローバル化の方針に従い、外国語科目の質および量の充実に向けたカリキュラムの再編を実施し、海外留学促進に向けた仕組み作りをするとともに、その担当部署であるグローバル教育センターを平成28年度に設置することになりました。
- (3) 平成28年度からの教養科目の充実に向け教養教育科目をグループ化するとともに、時代のニーズに応じた魅力ある講義科目を新設し、それらの科目をバランスよく学生が受講するための仕組みを作りました。
- (4) 初年次教育、在学中の職業・社会体験、卒業後の進路の実現に向けた実践的教育を学生が受講できるよう、全学的なフレッシュマンセミナーやインターンシップを含めたキャリア教育科目についてキャリア形成委員会を中心に検討しました。
- (5) 本学の特徴である理数系科目を整備し、入門科目から、教養基礎科目、専門基礎科目、専門科目への調整を行いました。

これまでの「現代人の科学」に加えて「身近な物理学・化学・生物学・地学」の科目を新設し、入門科目と合わせて多様な学生の習熟度に応じた理数系科目が受講できるよう調整しました。

- (6) 上記の改革により整備された科目群を学生が効率的に受講できるようなカリキュラムデザインを検討しました。

#### ■ポートフォリオシステムの構築

平成28年度のポートフォリオシステム導入に向けてワーキンググループを設置し、構築準備を進めました。

#### ■FD推進

授業アンケートや学生FDを通して授業改善を進めました。シラバスの第三者チェックを進め、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとの整合性のあるカリキュラム改善を進めました。

#### ■学科の特色ある取組

「生命医療工学科（再生医療コース）」「生物地球学科（恐竜・古生物コース）」等に代表される社会のニーズに合わせた教育研究分野の拡充に取り組まれました。「早期研究室配置プログラム」「習熟度別クラス編成」「JABEE 認定プログラム」「国家試験対策」「フィールドワーク重視のカリキュラム」「学会・コンテスト等への積極的参加」等積極的に特色ある教育に取り組まれました。

#### ■設置、募集停止、改組

平成27年度に工学部旧生体医工学科は生命医療工学科に名称変更しました。また、理学部応用物理学物理科学専攻と医用科学専攻の入学定員を変更しました。

物理科学専攻 30名→40名

医用科学専攻 40名→30名

平成28年度新設等案件として、文部科学省に大学院生物地球科学研究科の設置届出が受理され、教育学部の設置も認可されました。学生の受入に向けた準備を始めています。名称変更案件として、応用

物理学科の医用科学専攻を臨床工学専攻に変更します。

## 研究の充実

#### ■大学院の充実

学部学生の大学院科目受講制度の導入を検討し、進学説明会の充実などを通じて、大学院への進学率の上昇を目指しました。また、より多くの社会人を受け入れるための方策についても検討を進めました。

#### ■文部科学省等補助金事業等

##### 1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

##### (1) 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度理学部が申請し、採択されました。補助期間5年計画の最終年度の事業を行い、研究成果報告書を提出しました。地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、進化してきたか、という我々の過去を知ることです。このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

テーマ1 : 新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2 : 鉱物微小領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度・高精度化、およびその応用

テーマ3 : 新たなルミネッセンス手法による隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃変成過程の定量評価

研究者数 : 10名

代表者 : 理学部応用物理学 教授 豊田新  
事業期間 : 平成23年度～平成27年度(5年間)

##### (2) QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の4年目の事業を行いました。

生活支援機器や環境改善によりQOL (Quality of life 生活の質)を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組み、ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションの両者を駆使する革新的な研究開発の拠点を形成します。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度(5年間)

### (3) 申請計画

平成27年度は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「中国四国地方の再生医療を支える細胞理工学研究拠点の形成」と「革新的光変換物質の創製と応用に向けた研究拠点形成」の2件を申請しましたが不採択でした。

## 2. 大学教育再生加速プログラム

(インターンシップ等を通じた教育強化)

取組名称：中国・四国圏域での産官学協働によるインターンシップ等の推進

平成24年度～平成26年度に産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマA】の「産業界との連携による中国・四国地域人材育成事業」で行ってきた連携をもとに、【テーマB】として平成26年度からPBLやインターンシップ等の地域密着型産官学連携教育を推進することで次世代を担う人材育成の活性化を目指した取り組みを実施していましたが、平成27年度より事業名が変更され、「大学教育再生加速プログラム」となりました。事業期間2年計画の最終年度の取組を行いました。

取組担当者：工学部 教授 笠 展幸

事業期間：平成26年度～平成27年度(2年間)

## 3. 外部資金の獲得

科学研究費助成事業等の競争的研究費、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進しました。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

## 4. 知的財産

### (1) 発明の知的財産化

研究者の発明を知的財産化することを目指し、

職務発明委員会等を通じて職務発明の発掘に努めました。

①4月23日 1件 ②5月29日 1件

③6月13日 2件 ④9月14日 3件

⑤11月2日 2件 ⑥11月4日 1件

⑦11月13日 1件 ⑧12月11日 1件

⑨3月29日 2件

### (2) 特許セミナー

特許セミナーを年数回開催し、研究者及び学生が研究した成果の知的財産化を推進しました。

第1回 9月25日

第2回 10月23日

第3回 11月27日

### (3) 外部機関との連携

中国銀行等6銀行が行っている「TSUBASA(翼)プロジェクト」と連携しました。これは、大学・企業等の保有する特許情報を企業特許レポートとして共有し、地域企業の新規事業や事業拡大を支援するものです。

## 5. 平成27年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業

教育の質的転換に係る設備の補助を行う「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に申請し、不採択となりました。

タイプ名称：タイプ1「教育の質的転換」

申請設備：ポートフォリオ支援システム 一式

取組担当者：学務部 次長 上嶋 明

## 学生支援

### ■障がい学生支援

障がい学生への修学支援体制を充実させるために支援室を平成28年度に新設し、関係部署と連携を図りながら、障がい学生等一人ひとりに合わせた支援ができるよう、準備を進めました。

### ■生活支援

学生が課外活動等の大学生活を通して、社会人として自立していくための行動力を身に付けられるよう、一人ひとりの学生ニーズに応じた支援をしまし

た。また、奨学金等の情報提供を通して、経済的な事情により修学困難な学生をサポートしました。

## ■進路支援

### 1. 就職進路ガイダンス・各種セミナー

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー、グループディスカッション、SPI、面接対策等各種セミナーを時期に応じて開催します。また、1年、2年次生の低年次向けガイダンスを年次ごとに数回行い、3年次生対象ガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。

### 2. 就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を3年次生対象に15回実施しました。また、2・3年次生を対象に公務員試験対策講座及び本学独自の公務員講座を毎月実施しました。

### 3. 学内会社説明会

学生に様々な企業や業界の研究をさせるため、年間約100社の会社の人事担当者を招き、学内会社説明会を随時開催しました。この他に岡山県と合同で県内企業の学内説明会も開催しました。

### 4. 合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する合同企業説明会を5月と3月に開催しました。この合同企業説明会には本学学生のために全国の企業の採用担当者が出席しました。

### 5. 就職懇談会

企業人事担当者と教職員との情報交換の場として、就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

### 6. 就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、v o l . 0 ~ 4

を発行しました。

### 7. 就職活動の時期変更の対応

ガイダンスや3月解禁直後の合同説明会に無料バスを出す等学生に十分対応できるように指導しました。

### 8. キャリア形成委員会

就職委員会をキャリア形成委員会に改め、インターンシップ及びキャリア教育について議論し実践しました。

## ■留学生支援

日本語や日本文化を学び、日本の習慣に慣れるよう生活面の支援をしました。また、東南アジアや中東出身の留学生が増えつつある中で、ハラル認証の食堂を運営するなど、福利厚生面でのサポートを整えました。

## ■その他

### ・学生満足度の向上

「授業アンケート」、「学生生活アンケート」を通じて学生の意見に耳を傾け、学生サービスの改善、向上や教育環境の充実に努めました。

### ・留年者対応

春学期末と秋学期末の成績不振者を対象に修学相談期間を設け、各チューターがこれら学生に対して面談を行いました。秋学期のはじめには学生と保護者に対し「教育進路懇談会」を本学と地方に会場を分けて実施し、秋学期末には1年次生とその保護者を対象に「修学相談会」を本学で実施しました。

### ・ハラスメント対応

時代の変化は人間関係のあり方まで変化し、近年、ゼミ指導は複雑で難しくなっています。全般的にハラスメント防止に向けた啓発を行い、特に新採用教員には、ハラスメント体制・予防等の講習会を開催し、新入生にはオリエンテーションでハラスメント体制等の説明をしました。

## 社会連携・社会貢献

### ■行政機関との協定

地域貢献及び地域活性化、教育研究を目的として、要望に応じて協定等を締結しました。

6月28日付で岡山県生涯学習センターと連携協力に関する協定を締結しました。

### ■公開講座

岡山県からの委託による生涯学習大学講座(現代的課題を学ぶコース)を開講しました。

(8月～9月実施)

### ■図書館開放

地域に開かれた大学図書館として、調査・研究または生涯学習などを目的とした利用を希望される地域住民の方に開放しました。また、岡山県内の公共図書館と連携して公共図書館への資料の無料貸出を実施しました。

### ■地域活動への参画、国際交流への参画

#### 1. 産業界との交流の活発化

以下に挙げる地域産業界との交流行事に参加し、自治体や地元企業との連携や交流を深めます。

- (1) 岡山県主催の「産学官連携交流会」等  
【10月14日・3月22日】
- (2) 岡山市(岡山工業会等)県内市町村のビジネス交流会  
【5月29日・1月25日】
- (3) ㈱日本政策金融公庫の交流会  
【10月5日・2月1日】
- (4) おかやま信用金庫等の金融機関、支援機関主催のしんきん合同ビジネス交流会  
【9月9日】
- (5) トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流  
【11月12日】
- (6) 技術振興団体(岡山県産業振興財団、山陽技術振興会、SEO等)が主催する交流会に多数参加しました。
- (7) 各種技術交流会  
さらに、本学の広報を兼ねて、官公庁や産業界

からの相談、見学依頼を受け入れました。

#### 2. 研究成果の社会への発表について

今年で15回目を迎える「OUSフォーラム2015」を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者の80件のシーズ発表等を行いました。その他に東京等で開催される研究発表会で研究シーズの公開を行いました。

- (1) 「OUSフォーラム2015の開催」  
(11月20日:岡山)
- (2) JST科学技術振興機構「新技術説明会」での発表  
(11月5日:東京)
- (3) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」  
(3月18日:岡山)

#### 3. 平成27年度大学教育再生戦略推進費「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

岡山県立大学が代表校となる取り組みに参加校として参画し、採択されました。

事業名: 地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業

事業期間: 平成27年度～平成31年度(5年間)

#### 4. 大学間の交流

平成23年度に終了したGP事業「岡山オルガノン」の構築に関する事業を、岡山県内16大学で構成する大学コンソーシアム岡山が継承しています。

本学は加盟校として大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部を柱とした、大学連携による相互協力、学生交流やボランティア活動など、地域社会における産学官の協働推進を通じて、地域活性化につながる高等教育構築事業の充実と発展を目指します。

8月6日には、地域社会の発展のため、教育・文化の振興や人材育成、福祉の向上等を取組むことを目的として、岡山県と包括連携協定を締結しました。

#### 5. 外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画する予定です。各委員会を通じて、産業界や官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に

努めました。

## 6. 地域と国際交流

(1) アメリカ人職員が地域保育園に出向き、幼児教育に新鮮な英語教育を行いました。また、本学を幹事校として、加計グループ5大学に在籍する留学生による弁論大会を主体とする第6回インターナショナルフェスティバルを開催しました。

(2) マレーシアの国際協力推進で外務大臣表彰  
日本マレーシア国際工学院（日本式「工学教育を行う学術機関」）に本学を始め京大・阪大・九大・東工大等20数大学がコンソーシアムを組み協力したことが評価され外務大臣表彰を受けました。

### ■ボランティア活動

2011年3月11日の東日本大震災による被災地に対して、岡山県経済同友会と大学コンソーシアム岡山が連携して過去4回にわたり復興支援ボランティアが実施されてきました。平成27年度においても夏休みを利用したボランティア活動の参加者募集を行い、2015年8月21日から25日迄6名の本学学生が参加しました。

## 教育研究環境

### ■施設の充実

教育研究環境の改善を図るため、A1号館を建設しました。A1号館は、面積約27,000平方メートル、地下1階地上11階建の耐震対策を強化した校舎です。

### ■キャンパス緑化

キャンパス内で自然観察等の教育研究活動ができることは、本学の大きな特色です。この恵まれた環境を維持しながら、キャンパスの緑地等の美化を進めました。

## 学生の受入

### ■学生の受入方針

広報においては、データに基づいた広報活動、受験生対話、大学広報に注力しました。特に大学広報においては「SCIENCEFUL!」というメッセージを発信しました。

### ■入試方法等

厳正入試と危機管理、親切な対応、教育とのリンクを図りながら実施しました。2016年度入試より、教育学部新設に備え文系用入試科目を追加しました。ネット出願導入拡大により、さらに新たな受験者層の発掘をできるように充実しました。

### ■オープンキャンパス

受験生が進路先として適切かを判断するためのオープンキャンパスのほかに、科学の面白さを紹介するサイエンスレクチャーや、一般の方を対象とした公開講座を展開しました。

## 内部質保証

### ■自己点検

本学は昨年度から各組織別評価委員会を設置し、組織別の自己点検・評価を実施しています。PDC Aサイクルの確立に向けて、各組織が相互に連携しながら、自己点検活動を推進しました。また、教員データベースの新システム稼働に併せて、今年度から教員を対象に、自己点検シートを用いた自己点検活動を開始し、教員の資質向上を図りました。職員については、職員の資質向上を目的とした「進化する自己点検・勤務考課」を継続実施しました。

### ■学外者の意見の反映

今年度も大学評価委員会において、産・学・官から外部委員を迎え、自己点検・評価に関する審議の客観性、妥当性、透明性を高めるように努めました。

## ■教員データベースの充実

教員データベースは、本学に所属する教員の教育研究業績等を広く社会に公開することを目的としています。今年度は、教員自己点検制度に対応するよう、機能面の拡充にも努めました。

## その他の取組等

### ■創立50周年事業

平成26年度創立50周年を迎え、平成27年度も記念事業を継続して実施しました。

1. 新棟の建設 平成28年3月に完成しました。
2. 募金事業 50周年記念事業募金を継続して募集しました。
3. 記念事業 教職員や学生が企画する記念事業を継続して行いました。

### ■正課外活動の支援

クラブ活動の全国レベルの活躍およびTOEIC等で優秀な成績を収めた学生に学長表彰等の制度を活用しました。学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競う全日本学生フォーミュラ大会の参加を支援しました

### ■入学定員増の申請

文部科学省からの入学定員超過に対する定員規模の厳格化を受け、各学部・学科において定員増を検討し、定員確保の見通しが付く学科について収容定員増の認可申請を行いました。

## 人事・組織

今年度は、現学長の最終任期となり、理事会にて次期学長を決定しました。また、学長を中心に次期執行部の人事構想をまとめました。

また、平成28年度に実施する大学組織の大幅な改編に向けて、準備・検討を行いました。

## 主な行事

4月3日	入学宣誓式
4月4日 ～ 7日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
4月25日	就職進路懇談会
5月9日 ～ 10日	皐月祭
5月26日	合同企業説明会
6月14日	オープンキャンパス
7月3日	七夕エコナイト
7月21日 ～ 31日	春学期定期試験
8月1日 ～ 2日	オープンキャンパス
9月10日	春学期学位記授与式 秋学期入学宣誓式
9月11日	秋学期オリエンテーション
9月13日	教育・進路懇談会（本学会場）
9月19日 ～ 20日	教育・進路懇談会（地方会場）
9月23日	オープンキャンパス
10月4日	AO入試・帰国生徒入試
11月3日	特別推薦入試、専門学科・総合 学科特別推薦入試Ⅱ期、教職特 別課程前期入試
11月14日 ～ 15日	推薦入試A方式
11月20日	OUSフォーラム
11月21日 ～ 23日	半田山祭（大学祭）
12月13日	推薦入試K方式
1月16日 ～ 17日	大学入試センター試験
1月22日 ～2月6日	秋学期定期試験 (1/23～24, 1/29～2/1を除く)

1月30日 ～2月1日	一般入試前期S A・S A B方式
2月19日	一般入試S B・B 1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期



## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成27年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			
			留学生	社会人		留学生	社会人	社会人	
大 学 院	理学研究科（博士）	13	1		39	9			
	理学研究科（修士）	76	49		152	97			
	工学研究科（博士）	5	0		15	5	1	1	
	工学研究科（修士）	66	29	2	132	68	8		
	総合情報研究科（博士）	2	1		6	6		2	
	総合情報研究科（修士）	20	14		40	29	2		
	大学院 計	182	94	2	0	384	214	11	3
学 部	理 学 部	応用数学科	95	116		380	462	1	
		化学科	70	67		280	335		
		応用物理学科	70	68		280	275		
		基礎理学科	75	87		300	344		
		生物化学科	85	98		340	400		
		臨床生命科学科	85	99	1	340	405	1	
		動物学科	40	49		160	185		
		計	520	584	1	0	2,080	2,406	2
	工 学 部	バイオ・応用化学科	75	96	2	300	353	3	
		機械システム工学科	85	87	4	340	394	10	
		電気電子システム学科	70	84	3	280	324	14	
		情報工学科	85	105	1	340	430	5	
		知能機械工学科	55	60	2	220	226	24	
		生命医療工学科（※）	60	66		240	232	19	
		建築学科	70	82	5	290	339	26	
計		500	580	17	0	2,010	2,298	101	0
総 合 情 報 学 部	情報科学科	80	92	2	320	384	6		
	生物地球システム学科 (募集停止)		—	—	0	21			
	社会情報学科	80	97	4	320	370	13		
	建築学科 (募集停止)		—	—	—	2			
	計	160	189	6	0	640	777	19	0
生 物 地 球 学 部	生物地球学科	120	140		440	503	1	1	
	計	120	140	0	0	440	503	1	1
学 部 計		1,300	1,493	24	0	5,170	5,984	123	1
<b>総 合 計</b>		<b>1,482</b>	<b>1,587</b>	<b>26</b>	<b>0</b>	<b>5,554</b>	<b>6,198</b>	<b>134</b>	<b>4</b>
理学部理学専攻科		30	0			30	0		
教職特別課程		50	14			50	14		
留学生別科		60	17	17		60	17	17	

※生体医工学科より平成27年4月1日に名称変更

(単位：人)

## ■ 卒業生数等一覧

(平成27年度)

区分		修了者・卒業生	満期退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	5	0	3	1	33%		2	2	6
	修士	94		79	51	64%	1	4	4	0
学部		1,300		1,125	867	77%	133	123	125	465
教職特別課程		11		12	5	41%		2	0	0
留学生別科		17					8	0	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成28年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株) (株)大林組	新日鉄住金(株) 大成建設(株)	(株)クラレ (株)中国銀行	岡山県庁 西日本旅客(株)	他
-------	----------------------	---------------------	-------------------	------------------	---

## ■ 教職員数

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	2	162	63	33	4	2	1	1	269

※学長・副学長除く

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	210	114

## 財務関係

### ■ 事業活動収支

(単位：千円)

科目		27年度 決算額	前年度 決算額(※1)
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	8,952,640	8,922,462
	経常費等補助金	715,936	784,113
	その他収入	1,031,198	955,352
	計	10,699,774	10,661,928
教育活動 支出	人件費	5,265,655	5,218,417
	教育研究経費	2,521,256	2,576,373
	管理経費	590,195	692,371
	その他支出(※2)	641	140,938
計	8,377,657	8,628,099	
教育活動収支差額		2,322,116	2,033,830
教 活 外	収 受 取 利 息 等	170	*
	支 借 入 金 利 息 等	47,448	*
	教育活動外収支差額	-47,277	*
経常収支差額		2,274,839	2,033,830
特 別	収 資 産 売 却 差 額 等	16,176	*
	支 資 産 処 分 差 額 等	47,082	*
	特別収支差額	-30,906	*
基本金組入前収支差額		2,243,933	2,033,830
基本金組入額合計		-147,085	-41,905
当年度収支差額		2,096,848	1,991,925

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

### ■ 施設設備整備 (抜粋)

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを実施するとともに、改修工事を行いました。また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器を計画的に整備しました。

○主な施設関係 (単位：千円)

事業名	金額
新1号館新築工事	2,236,700
新1号館 電話・LAN設備工事	46,105
新1号館 入退室管理設備工事	26,223
新1号館 ITV設備工事	8,294
新1号館 入試広報部倉庫空調機設置工事	2,981
新1号館 7F&8Fクリーンルーム等設置工事	71,070
新1号館への外部インフラ工事	26,234
第28号館動物系排水管切替工事	2,670
蒜山学舎1階トイレ改修工事	1,888
自然植物園不法投棄防止対策(フェンス設置)工事	2,250
笹ヶ瀬キャンパス法面对策工事	1,620
笹ヶ瀬キャンパスグラウンドトイレ改修工事	9,858
加計記念体育館南側パルコニスロープ設置工事	2,500
第九学舎空調設備	15,000
学務部システム改修	16,200

(新学科開設年次以降の創設事業) (単位：千円)

事業名	金額
新1号館共用備品	179,000
電話交換機一式	69,000
ネットワーク支線・無線機器	23,000
ネットワーク幹線機器	54,781

○主な共同研究 (単位：千円)

事業名	金額
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業共同研究	18,000
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	40,000
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)	1,250